



あじさいと

清き水路の

丹生の里

古くから水銀の産地として栄えた丹生は、神宮寺の門前町でもあり、丹生千軒と言われるほどの大きな町であった。

丹生という地名は丹(水銀)を生むところという意味で、全国にこの地名が何か所かあります。勢和地区の丹生も昔から水銀の産地として知られてきました。

伊勢、大和、紀伊方面に街道が通じ、昔から丹生千軒といわれるほど栄えた大きな町でした。

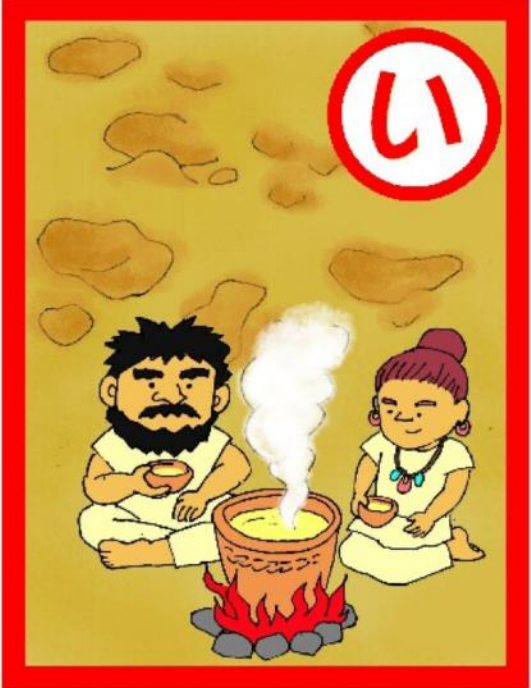
しかし織田信長が本能寺で討たれた二年後の天正12年、三瀬左京の乱で丹生の町はほとんどが焼けてしまいました。

その後、だんだん水銀はとれなくなりしましたが、神宮寺の門前町として参詣客を集めました。大師湯とい

う鉱泉の温泉も数年前まで開かれていました。

丹生の町には丹生川、八王子川、そして西村彦左衛門が力を尽くした立梅用水などが流れています。水路への関心を高めようと「あじさいいっぱい運動」が平成5年にはじめられ、水路の周りに1万本を目標にアジサイが植えられています。

平成9年から「大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開催され、用水路ボート下り、田んぼコンサート、田んぼの綱引などが行われ、各地からの来訪者にぎわっています。



古の家や炉の跡残つ てる 縄文時代の 坂倉遺跡

坂倉遺跡

東池上。県指定の史跡「坂倉遺跡公園」として保存。縄文時代早期の住居跡や炉の跡が残る。

JR参宮線の多気駅から下り(伊勢方面)列車に乗るとすぐ、右手線路のわきに小高く盛り上がった場所が見えます。県指定の史跡公園として保存されている東池上の坂倉遺跡です。

遺跡には古墳と呼ばれるお墓だったところ、そして住まいの跡や土器や瓦を焼いた窯跡などがありますが、坂倉遺跡は昔の人の住まいがあったところですよ。

はるか昔、縄文時代の初め頃、ここには簡単な家があったて、子どもやおじいさん、おばあさん、お母さんやお父さんが出て、はたして布があったかどうかわかりませんが、みな布をまいただけのような

簡単なものを着て、生活していた様子を想像してみましよう。あなた方のご先祖様が暮らしていたかもしれませんね。

ここが住居跡だとわかるのは炉の跡が残っているからです。キャンプの時などに石やレンガを積んで炉をこしらえますが、縄文時代のこの人たちは地面に穴を掘って煮炊きをしていたらしく、底にものを燃したあとの穴がいくつも見つかったのです。

多気町内は縄文時代の遺跡の宝庫です。櫛田川と宮川にはさまれた山がちの地形。狩りや漁をし、そして山野草も採れる豊かな土地は住むのに適した所だったにちがいありません。



裏井戸で
西瓜を冷やそう
暑い日は

裏井戸は上牧の共同の水場。他にも町内にはしゅんど、しようずなどと呼ばれる水場がある。

裏井戸は上牧の共同の水場です。普通の井戸よりはずっと大きくて周りを石がきで囲ってあり、水辺まで石の階段で降りていくようになっていきます。

に利用してきました。波多瀬にも川へ降りる途中に水が湧き出る園の井や浜井場などがあり、山の中の湧き水、名古屋の岩清水は名水として知られています。

野菜や米を洗ったり、洗濯をしたり、水道がない時代には生活に欠かせない場所でした。女の人たちが仕事をしながらおしゃべりをする場所でもありました。

兄国のしようずさんは伊勢本街道沿いの水分社のあたるあたり。道路の下に水が湧き出て、旅人が喉を潤す場所でした。

しゅんどという水場もありました。三正田のしゅんどは櫛田川へ降りていく道の途中の斜面から水が湧き出しています。そこに水を溜める浅い池が囲ってあり、村の人たちが洗いものなど

ただし水分社の小さなお社が建てられ、山神の石碑を集めて祀られたのは歩いて旅をする人が少なくなつた明治以後のことでした。東池上の道路わきに水が湧き出ている場所もしょうずさんと呼ばれるようになりました。



笑顔舞う
桜堤の
桜とともに

平成11年、佐奈川右岸、上朝長の堤防が整備され、桜づつみモデル事業により桜が植樹された。

多気町にはお花見を楽しめる、スポットがたくさんあります。中でも一番新しい桜の名所が佐奈川「桜づつみ公園」です。

平成11年、佐奈川が櫛田川に合流する地点、上朝長の堤防が広げられ、桜が植樹されました。

パターゴルフ場も作られ奥にある梅園は桜に先立って春を告げます。最初ひ弱かった桜の木も、今や立派に育っています。北端には上朝長に伝わる庚申像や役行者像が祀られています。

このほかの桜も見てみましょう。

のびのびパーク天啓(芝生

広場、旧法泉寺、涵翠池ほとり、三疋田の桜山、平谷の秋葉山、五桂池、栃ヶ池の山桜、神坂の行者桜、朝柄振興事務所裏山、篠山城跡、勢和台スポーツセンター、八王子川ポケット公園、丹生川畔の薬師さん、神宮寺隣の餌飼山、波多瀬の山桜、

杉本電機構内、片野の桜並木、文後トンネルの峠、三養地区(色太、土屋、車川)沿道、車川の油田邸、各寺院、用水池のほとり、小中学校の校庭などまだまだ盛りがあります。

春の一時、町中が桜色に包まれ、心がうきたつ景色が広がります。



大楠おおくすが

多気町ずっと

見守るよ

前村の大楠おおくすは紀勢本線きせいほんせんと国道42号こくどう42ごうから見える旧道きゅうどう沿いそばにある。楠くすのこは旧多気町きゅうたけまちから引き続き町の木きのに選ばれた。

成長せいちょうの早い楠くすのこは大木が多くの神木しんぼくとされている木が各地あちこちにあるのですが、前村まえむらの大楠おおくすはひときわ目を引く大きな木です。幹回りかみわりは七・五しちごメートル、枝は三、四さんよの四方の範囲はんいをおおっており、樹齡じゅりやうは八百年を越すといわれています。

した一族ししたいっしゆの勢力圏せいりきけんでした。南朝なんてうの復興ふっこうを目ざし隠れ住んだ忠臣ちゆうしんの遺蹟いせきを後世こうせいに伝えるために、一本いっぽんの老樹らうじゆを霊木れいぼくとして信仰しんこうし、保存ぼぜんをはかってきたのです。

旧道きゅうどう沿いそばにありますが、紀勢本線きせいほんせんを行く列車れっせんからも、国道42号こくどう42ごうからもそれと知れます。

平成元年12月、旧多気町の指定天然記念物しじやうてんぜんきねんぶつになり、旧多気町きゅうたけまちから引き続き町の木きのにも選ばれています。

大楠おおくすの根元ねもとには「大楠神社おおくすじんじゃ」と刻きざんだ自然石しぜんせきの小さな石碑せきがあり、小さいお社やしろが祀まつられています。

このほかにも江戸時代えどじだいに相可あひかりの豪商ごうかう西村さいむら広休ひろやすみの植物園じふつくわんに植うえられていた楓樹ふうじゆや多羅葉たらは、キンポウラン、波なみ多瀬たせの山桜やまざくら、土屋つちやのお葉付おはふききイチョウ、神宮寺かみみやうじの伊勢いせ椿つばきの原木げんぼく、栃ヶ池とちがいけの矮性わいせいクチナシやマメナシなどの珍しい植物じゆんじゆがあります。

南北朝時代なんぼくしゆうていのころから南なん勢地方せいちほうは国司こくしであった北畠きたはたけ家けとその仲間なかまの南朝なんてうを支持し

した一族ししたいっしゆの勢力圏せいりきけんでした。南朝なんてうの復興ふっこうを目ざし隠れ住んだ忠臣ちゆうしんの遺蹟いせきを後世こうせいに伝えるために、一本いっぽんの老樹らうじゆを霊木れいぼくとして信仰しんこうし、保存ぼぜんをはかってきたのです。